

経皮吸収型製剤（貼付剤）について

貼付剤とは、皮膚から吸収されて作用する薬剤です。

今回は院内で使われている、全身に作用する鎮痛効果のある貼付剤についてまとめました。

		フェントス®テープ	ノルスパン®テープ	ジクトル®テープ
一般名		フェンタニルクエン酸塩	ブプレノルフィン	ジクロフェナクナトリウム
規格 (院内採用品)		0.5mg, 1mg, 2mg, 4mg, 6mg, 8mg	5mg, 10mg, 20mg	75mg
適応		①中等度から高度の疼痛を伴う各種がん ②中等度から高度の慢性疼痛 ※非オピオイド鎮痛剤及び弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な場合	変形性関節症、腰痛症における慢性疼痛 ※非オピオイド鎮痛剤で治療困難な場合	①各種がん ②腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群及び腱鞘炎
効果		オピオイドμ受容体刺激 ⇒脊髄、脳レベルでの痛みの閾値↑⇒鎮痛		シクロオキシゲナーゼ阻害 ⇒プロスタグランジン合成↓ ⇒鎮痛
使い方 貼付部位		1日毎に貼り替え 胸部、腹部、上腕部、大腿部	7日毎 に貼り替え 前胸部、上背部、上腕外部、側胸部	1日1回、1回1~3枚 (適応によって異なる) 胸部、腹部、上腕部、背部、腰部、大腿部
起こりやすい副作用	消化器系	悪心 (33.1%) 嘔吐 (16.5%) 便秘 (30.8%)	悪心 (62.5%) 嘔吐 (35.7%) 便秘 (33.7%)	オピオイドの鎮痛薬は悪心、便秘、傾眠が問題になりやすいよ
	精神神経系	傾眠 (28.6%)	傾眠 (30.3%) 浮動性眩暈 (18.9%) 頭痛 (11.8%)	
	皮膚	貼付部位皮膚異常 (15.8%)	適用部位紅斑 (15.3%) 適用部位掻痒感 (28.6%)	
はがれたときの対応	ただちに新しいテープに貼り替える			
入浴時の対応	熱いお風呂への入浴は避けること		特になし	
MRI時の対応	剥がすことを推奨		必ず剥がす	
その他	劇薬 麻薬		劇薬 第二種向精神薬 (非麻薬)	

鎮痛効果のある貼付剤には、ロキソプロフェンNaテープやモーラステープなど、貼付部位周辺に効くものと、今回挙げたもののように全身に作用するものがあります。全身に作用する鎮痛剤は効果の強いものが多く、麻薬や向精神薬に指定されているものもあります。フェントス®テープは麻薬に指定され、厳重な管理が必要ですが、鎮痛効果はかなり強いです。ノルスパン®テープは向精神薬に指定され、効果が7日間持続することが特徴的です。ジクトル®テープはがん性疼痛に適応を持つ初のNSAIDsの貼付剤として2021年に発売され、今年の6月からはがん性疼痛以外にも上記の疼痛に使えるよう、適応が拡大されました。